

教員名	林 廣子 (HAYASHI Hiroko)
所 属	文教育学部芸術・表現行動学科音楽表現講座
学 位	音楽学士 (1967 東京芸術大学)
職 名	教授
URL/E-mail	hayashi@cc.ocha.ac.jp

## ◆主要業績

総数 (4) 件

- ・林 廣子リサイタル 王子ホール：2005年10月
- ・アルベリ演奏会〈オペラアリア〉企画・構成・指導 上野旧奏楽堂：2005年7月
- ・日本音楽教育振興協会主催 夏期ヴォイストレーニング研修会 指導 軽井沢：2005年8月

## ◆研究内容

- 1.アルベリ演奏会〈オペラアリア〉企画・構成・指導  
於：上野旧奏楽堂 2005年7月  
主宰しているグループ「アルベリ」の〈オペラアリア演奏会〉の企画、構成、指導を行なった。出演者は21名。様々なアリアを演奏した。
- 2.日本音楽教育振興協会主催 夏期ヴォイストレーニング研修会 指導  
於：軽井沢 2005年8月  
研修会において、呼吸法とジラーレの実習指導を行った。
- 3.林 廣子リサイタル(イタリア歌曲・フランス歌曲・日本歌曲・オペラアリア)  
於：王子ホール 2005年10月  
小坂圭太氏の伴奏による「林 廣子ソプラノリサイタル」を開催。曲目はイタリア歌曲から O.G.パイジェッロ “いとしい人が来る時”、A.スカララッティ “すみれ”、F.D.トスティ “理想の人”、G.スイベッラ “ジロメッタ”、P.マスカーニ “アヴェ・マリア”、E.De クルティス “勿忘草”、F.リスト “3つのペトラルカのソネット”、日本歌曲から畑中良輔 “八木重吉による五つの歌”、フランス歌曲から H.デュパルク “旅への誘い” “悲しき歌”、E.サティ “あなたがほしい” “エンバイヤ劇場のプリマドンナ”、アリアとして C.グノー “ロメオとジュリエット” “私は夢に生きたい”
- 4.アルベリ演奏会〈歌曲〉企画・構成・指導・指揮  
於：上野旧奏楽堂 2006年3月  
アルベリ歌曲演奏会を企画、構成、指導を行った。出演者は独唱21名、コーラス12名。曲目は様々な歌曲とお茶大公開講座コーラス受講生メンバーによるコーロ・フィオーリのコーラスで木下牧子「月の角笛」の演奏と指揮を行った。

## ◆教育内容

学部：声楽Ⅰ演習(4単位)…声楽基礎、呼吸法、歌唱法の講義及び演奏。前期イタリア歌曲、後期日本歌曲。声楽Ⅱ(4単位)…前期ドイツ歌曲、後期フランス歌曲の研究。声楽Ⅲ(4単位)…ホールにおけるより表現豊かな演奏の研究。声楽Ⅳ(4単位)…宗教曲を含む古典・ロマン派声楽作品及びホールにおける演奏研究。声楽表現学(4単位)…ベルカント唱法。イタリア歌曲研究。声楽アンサンブル研究 A,B,C,D(2単位)…O.コライ「ウインザーの陽気な女房たち」の合唱指導。教職ピアノ(1単位)…1コマ5人の弾き歌い、ピアノ曲指導。教職声楽(1単位)…コールユーブンゲン。独唱曲指導。卒業演奏研究(2単位)…2月、川口リリアホールにおいて行われた卒業演奏会出演者3名の演奏曲目(10分のプログラム)の作品研究及び演奏指導。  
各学年において以上の作品研究及び演奏実技個人指導を毎週行うと共に「演技をとまなうオペラアンサンブルのびびり演奏会」の出演者8名の年2回の演奏プログラムの個人指導を行った。他にサークル活動として微音祭に行われる恒例のオペラ、2005年度はO.コライ「ウインザーの陽気な女房たち」出演者全員の全曲声楽指導を行った。

大学院：  
前期課程；声楽表現演習(4単位)…イタリアのベルカントによるオペラアリアを中心とした声楽楽曲について、その演奏表現を音楽的側面と身体的側面をも考察しながら実践的研究指導を行った。修了演奏(8単位)…3月、川口リリアホールにて開催の修了演奏会出演者2名の演奏曲目(30分のプログラム)の作品研究、実技指導を行った。声楽演奏学特論(4単位)…履修者2名が微音堂にて開催したオペラ、モーツァルト「劇場支配人」、ブリテン「電話」の作品研究、声楽実技指導を行った。  
後期課程；声楽表現論演習(2単位)在籍者2名の論文研究指導及び声楽実技指導を行った。又その内1名は11月と1月に異なるプログラムによるリサイタルを開催。プログラム曲目(イタリア作品、フランス作品、ドイツ作品、日本作品、韓国作品等)の作品研究と実技指導を行った。

## ◆将来の研究計画・研究の展望

---

喉に負担のかからない、なめらかで自然な呼吸による美しい発声の研究をしている。この発声には横隔膜を意識した支え、喉頭の安定と共鳴腔の広さの保持等が重要な要素になると考えられるが、この事を自ら体感・実践し、音響分析等の検証も行いながら、生徒に会得させる事を課題としている。しかしながら、この発声を総合的に会得する事はたやすい事ではなく、段階的に習得出来る方法をいろいろ模索し、検討を行いながら研究している。近年中にこの成果についてまとめたいと思っている。

## ◆受験生等へのメッセージ

---

本学、音楽表現のアドミッション・ポリシーに「勉強も実技もきちんとやってみたい、そんな贅沢な悩みを抱えている人にこそ、本コースは開かれています」と書かれています。真に、総合大学の中に存在する音楽科であるという条件を最大限に活かせる勉学意欲旺盛な学生を望んでいます。又、東京藝術大学音楽学部と単位互換の協定が結ばれているので、その事も役立てていただきたいと思います。

その上で声楽に関しては、無理のない発声、国際的に通じる発声と歌唱力を身につけていただきたいと思います。その為に声楽専攻者には3年次より日、独、仏、伊とそれぞれのエキスパートの指導者のもとで作品を学べる体制が生まれ、常時、東京芸大や国立音大の大学院在学学生あるいは卒業した男声の助演の方達を迎えて、実際の演技を伴うオペラ・アンサンブルの授業も開講され、前期と後期に一度ずつ試演会を行っています。そして4年次には演奏専攻者全員で、卒業演奏会を行います。又、毎年秋に開催される学園祭(徽音祭)において、3年次生がオーケストラ伴奏による手作りのオペラを上演します。今年は44回目の公演で、音楽科の伝統になっています。大学院修了者は30分のプログラムの修了演奏会の他にピアノ伴奏によるオペラ公演も行っています。これらの科目・演目をこなすには、かなりのパワーと努力が必要になります。しかしながらこの体験を通して得るものは、音楽以外の職業に就く場合にも大いに役立つものであると実感しています。